

科目名	社会福祉原論特論Ⅰ
科目責任者	川上 昌子
単位数他	2単位（30時間） 選択 春
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	社会福祉を捉えるに当たって、生活の視点から考えていく。生活が成り立たなくなることへの社会的援助が社会福祉であると考えからである。 具体的には、現代の生活問題・貧困問題について理解を深めること、高齢者福祉や児童福祉、障害者福祉に関連して、家族の生活機能の理解を深めることを目指す。その際、現代社会を前提に社会階層、家族、生活水準、社会政策との関連において考えていくことにする。 生活保護制度、児童福祉、高齢者福祉や障害者福祉について、問題と政策との関連から取り上げる。その際、所得保障とサービス給付との関連、普遍主義と選別主義、重点主義政策等の諸論点について、日本の現状をふまえながら考えたい。
到達目標	1. 貧困問題を理解する。 2. 生活問題を理解する。 3. 社会福祉政策の特異性を理解する。 4. 現在の重要な論点として、社会福祉「サービス」と普遍主義について理解する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：ガイダンス 第2－6回：ソーシャルワークの実際、事例検討 第7－11回：社会福祉の歴史と現代、歴史視点の重要性 第12－15回：貧困問題の理解を深める。日本の社会構造を社会階層構造の特異性として捉える。

学修方法	次回の授業のプリントの予習をしていくこと。
評価方法	講義への参加態度：70%。最後のレポートの評価：30%
課題に対するフィードバック	講義中に個別に回答していく。
指定図書	『社会福祉原論読本』川上昌子著、学文社
参考書	その都度指定、紹介、またはプリントを配る
事前・事後学修	社会福祉学の原論としての講義であるから、十分集中して取り組んでほしい。 事前・事後学修については講義の進行に応じて、都度指示する。
オフィスアワー	随時、相談する。

科目名	社会福祉原論特論Ⅱ
科目責任者	川上 昌子
単位数他	2単位(30時間) 選択 秋
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	社会福祉を捉えるに当たって、生活の視点から考えていく。生活が成り立たなくなることへの社会的援助が社会福祉であると考えからである。 具体的には、現代の生活問題・貧困問題について理解を深めること、高齢者福祉や児童福祉、障害者福祉に関連して、家族の生活機能の理解を深めることを目指す。その際、現代社会を前提に社会階層、家族、生活水準、社会政策との関連において考えていくことにする。 生活保護制度、児童福祉、高齢者福祉や障害者福祉について、問題と政策との関連から取り上げる。その際、所得保障とサービス給付との関連、普遍主義と選別主義、重点主義政策等の諸論点について、日本の現状をふまえながら考えたい。
到達目標	1. 貧困問題を理解する。 2. 生活問題を理解する。 3. 社会福祉政策の特異性を理解する。 4. 現在の重要な論点として、社会福祉「サービス」と普遍主義について理解する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1－4回：生活問題の視点について 第5－8回：家族機能の社会化について 第9－12回：生活水準について 生活水準把握の重要性、過去の研究の成果、今日の生活問題 第13－14回：社会福祉「サービス」と普遍主義について理解する 第15回：総括。

学修方法	次回の授業のプリントの予習をしていくこと。
評価方法	講義への参加態度：70%。最後のレポートの評価：30%
課題に対するフィードバック	講義中に個別に回答していく。
指定図書	『社会福祉原論読本』川上昌子著、学文社
参考書	その都度指定、紹介、またはプリントを配る
事前・事後学修	社会福祉学の原論としての講義であるから、十分集中して取り組んでほしい。 事前・事後学修については講義の進行に応じて、都度指示する。
オフィスアワー	随時、相談する。

科目名	社会福祉原論特論演習
科目責任者	川上 昌子
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	社会福祉に関わる生活問題と社会福祉の諸分野について理解することを目標とする。 社会福祉の諸分野についてその共通点と相違について、歴史的観点から理解するとともに、生活問題としての構造の相違を理解することができるように、授業を組み立てる。
到達目標	1. 各分野について歴史的経緯の相違を理解する。 2. 各分野の生活問題の特徴を理解する。 3. それぞれの分野における政策視点の相違を捉える。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：社会福祉の分野の生成 第 2 回：社会福祉に関わる生活問題と社会福祉諸政策の関係 第 3－5 回：公的扶助制度の理解。貧困とは、失業の意味、無業の意味、保護受給者の特徴、ナショナルミニマムとは、セーフティネットの日本の状況 第 6－7 回：児童福祉の理解。女性と就労、保育所と幼稚園の違い、社会的養護児童の問題 児童福祉の立ち後れの背景 第 8－9 回：障害者福祉:障害とは、障害者福祉が開いてきた社会福祉の地平と理念、北欧の社会福祉 第 10－12 回：高齢者福祉 高齢者福祉の必要の拡大、サービスの普遍性について 第 13－14 回：社会福祉の財政について 第 15 回：全体のまとめ 各自の関心分野についての報告

学修方法	単に知識として知るだけでなく、諸事象の関連を考えるようにしてほしい。
評価方法	講義への参加態度：70%。最後のレポートの評価：30%
課題に対するフィードバック	講義中に個別に回答していく。
指定図書	『社会福祉原論読本』川上昌子著、学文社
参考書	『公的扶助論』川上昌子編著、光生館 『都市高齢者の生活実態』川上昌子著、学文社 その他随時示す
事前・事後学修	各分野について、指定図書、参考書で事前学習してほしい。 事後学修については講義の進行に応じて、都度指示する。
オフィスアワー	随時、相談する。

科目名	ソーシャルワーク特論Ⅰ（貧困ソーシャルワーク）
科目責任者	大友 信勝
単位数他	2 単位 （30 時間） 選択 春
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	1. 「貧困ソーシャルワークを特論Ⅰのテーマにして開講する。 2. 社会福祉専門職に相当する生活相談・支援を誰が、どのように行ってきたのか。戦後は何故、専門職に切り替えたのか。その専門職の位置づけや水準はどういうものか、歴史的に検討する。 3. 社会福祉専門職の成立、形成、展開を「貧困ソーシャルワーク」を中心に展開する。げb
到達目標	現代社会福祉の歩みと社会福祉専門職の形成、展開を関連付け、専門職制度の成立に必要な基盤づくり、社会的条件整備について理解するのが到達目標である。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> 第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：社会福祉における自立論の動向ー各分野における自立論の原理、理念 第 3 回：公的扶助における自立論ー経済的自立論が政策の主流 第 4 回：救護法における自立論ー方面委員活動に見る自立論 第 5 回：旧生活保護法にみる自立論ー民生委員活動にみる自立論 第 6 回：GHQ（連合軍総司令部）のソーシャルワーク 第 7 回：厚生省保護課長・小山進次郎の自立論（『改訂増補 生活保護法の解釈と運用』） 第 8 回：仲村優一による公的扶助とケースワーク 第 9 回：公的扶助研究運動にみる自立論の取り組みー経済的自立論から社会的自立論へ 第 10 回：自立論を経済的自立、日常生活自立、社会的自立の並列と組み合わせで構成 第 11 回：釧路モデルが「半福祉・半就労」（社会参加）の中間的就労の概念を打ち出す 第 12 回：韓国・希望リボーンプロジェクトの自立論Ⅰ 第 13 回：韓国・希望リボーンプロジェクトの自立論Ⅱ 第 14 回：「貧困ソーシャルワークの歩み（小括） 第 15 回：公的扶助とソーシャルワークの課題

学修方法	重要な論点を講義し、関心のある領域を院生が発表し、討議する。
評価方法	レポート 60%、討議への参加 40%によって評価する。
課題に対するフィードバック	課題提出後の面談を中心にフィードバックする。
指定図書	『韓国における新たな自立支援戦略』 高菅出版
参考書	授業中に随時連絡する。
事前・事後学修	事前学修：シラバスのテーマを事前に学習する。(40 分) 事後学修：講義内容について振り返り整理しておく。(40 分)
オフィスアワー	研究室 (5703) にて、自由に研究相談に応じます。 時間については、初回授業で提示します。

科目名	ソーシャルワーク特論Ⅰ
科目責任者	佐藤順子
単位数他	2単位（30時間） 選択 春
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	本科目では、ソーシャルワーク特論Ⅱとともに、近年の「地域福祉の主流化」によりソーシャルワーカーに一層強く求められるようになったコミュニティソーシャルワークとコミュニティワークという方法について理解し、実践方法を身につけることを目指す。特にソーシャルワーク特論Ⅰでは、コミュニティソーシャルワークについて学びを深める。
到達目標	1. 地域福祉の政策・理論の変遷について理解できる 2. 近年ソーシャルワーカーに求められる新たな役割について理解できる。 3. コミュニティワークとコミュニティソーシャルワークについて、それぞれの概要、発展過程について理解できる コミュニティソーシャルワークの展開プロセス、方法について理解でき、実践力が身につく
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 近年の社会福祉、地域福祉の政策動向とソーシャルワーカーの新たな課題 第2回：生活の基盤としての地域社会 第3回：地域福祉政策、地域福祉理論の変遷 第4回：地域福祉援助の発展過程の概要 第5回：コミュニティオーガニゼーションからコミュニティワークへ 第6回： コミュニティワークからコミュニティソーシャルワークへ 第7～8回： コミュニティソーシャルワークの実践事例 第9回：コミュニティソーシャルワークのプロセス 第10～12回： コミュニティソーシャルワークの方法 福祉ニーズとアセスメント、プランニング、評価 第13～15回： コミュニティソーシャルワークを活かす視点と方法 アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーク

学修方法	発表、討論で進めていく
評価方法	レポート 50%、授業中の発表・討議・演習への参加 50%
課題に対するフィードバック	発表、討論のつど、フィードバックを丁寧に行う
指定図書	日本地域福祉研究所監修『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』中央法規
参考書	高森敬久：高田眞治・加納恵子・平野隆之著『地域福祉援助技術論』相川書房
事前・事後学修	事前に指定図書・論文を熟読する。発表担当者はレジュメにまとめ、報告する
オフィスアワー	科目責任者の研究室は 2606 です。時間については授業時に提示します。

科目名	ソーシャルワーク特論Ⅰ
科目責任者	福田俊子
単位数他	2単位（30時間） 選択 春セメスター
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	ソーシャルワーク特論Ⅰ及びⅡでは、ソーシャルワークのなかでも主として個別支援にかかわる基本的な知識を確認し、理解することを目的とする。本科目においては、ソーシャルワークの理念及び歴史を基盤としながら、その方法や展開過程に関する学修に主眼をおく。
到達目標	1. ソーシャルワークの基本枠組を理解できる 2. ソーシャルワークの実践と理論を結びつけて考えられるようになる 3. ソーシャルワーク実践の基盤となる展開過程について、理解し説明できるようになる
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 第2・3回： ソーシャルワークの理念 （ノーマライゼーション、クオリティ・オブ・ライフ、エンパワメント） 第4・5回： ソーシャルワークの歴史 （1800年代末～1960年代、1970年代以降） 第6・7・8回： ソーシャルワークとモデル （個人モデル、環境モデル、物語モデル、文化モデル） 第9・10・11・12回： ソーシャルワークの展開過程 （インテーク、アセスメント、計画の策定、計画の実施、評価、終結） 第13回： ソーシャルワークの実践事例①（障がい者とソーシャルワーク） 第14回： ソーシャルワークの実践事例②（こどもとソーシャルワーク） 第15回： ソーシャルワークの実践事例③（司法とソーシャルワーク）

学修方法	学生による発表及び討論で進めます。
評価方法	授業中の態度 50%、総括レポート 50%
課題に対するフィードバック	授業内の討議等で対応します。
指定図書	稲沢公一・岩崎晋也『社会福祉をつかむ』有斐閣
参考書	随時、提示します。
事前・事後学修	事前に指定図書を熟読し、レジメにまとめる。 事後には、不明な事項を自ら調べる。
オフィスアワー	科目責任者の研究室は 2614 です。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	ソーシャルワーク特論Ⅱ（公的扶助とソーシャルワーク）
科目責任者	大友 信勝
単位数他	2単位（30時間） 選択 秋
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	1. 「公的扶助とソーシャルワーク」を特論Ⅱのテーマにして開講する。 2. ソーシャルワーカーの倫理基準やエンパワーメントについて、重点的に取り上げる。 3. 公的扶助において、ソーシャルワークがどのように展開され、今日どのような問題や課題があるか、検討する。
到達目標	公的扶助におけるソーシャルワークの実践、理論についての歩み、現状、問題点と課題、これからの在り方を理解してもらうのが目標である。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第1回：オリエンテーション 第2回：国際ソーシャルワーカー連盟倫理綱領—社会福祉専門職の倫理や価値 第3回：ストレングス視点—利用者支援の理念と方向 第4回：エンパワーメント—利用者支援の視点とあり方 第5回：公的扶助とソーシャルワーク（主要な論点） 第6回：生活保護制度サービス論争Ⅰ（黒木利克を中心に） 第7回：生活保護制度サービス論争Ⅱ（小川政亮を中心に） 第8回：仲村・岸による「公的扶助とケースワーク」論争Ⅰ（仲村を中心に） 第9回：仲村・岸による「公的扶助とケースワーク」論争Ⅱ（岸を中心に） 第10回：「公的扶助とケースワーク」論争と公的扶助研究運動 第11回：福祉事務所におけるソーシャルワーク 第12回：福祉給付金受給者への「適正化」条例（監視型1） 第13回：生活保護ホットライン（監視型2） 第14回：大阪市「不正受給調査専任チーム」（監視型3） 第15回：「公的扶助とソーシャルワーク」の実践課題

学修方法	主要な論点を授業で説明し、関心のある領域を院生が発表するやり方を考えている。
評価方法	レポート 60%、討議への参加 40%によって評価する。
課題に対するフィードバック	課題提出後の面談を中心にフィードバックを行います。
指定図書	『韓国における新たな自立支援戦略』 高菅出版
参考書	授業中に随時連絡する。
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示したテーマを学修する。(40 分) 事後学修：講義内容を振り返る学修。(40 分)
オフィスアワー	研究室 (5703) にて、自由に研究相談に応じます。 時間については、初回授業で提示します。

科目名	ソーシャルワーク特論Ⅱ
科目責任者	佐藤順子
単位数他	2単位（30時間） 選択 秋
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	本科目では、ソーシャルワーク特論Ⅰとともに、近年の「地域福祉の主流化」によりソーシャルワーカーに一層強く求められるようになったコミュニティソーシャルワークとコミュニティワークという方法について理解し、実践方法を身につけることを目指す。特にソーシャルワーク特論Ⅱでは、コミュニティワークについて学びを深める。
到達目標	4. コミュニティワークの概念の変遷について理解できる 5. コミュニティワークの対象、理念について理解できる 6. コミュニティワークの展開プロセス、方法について理解でき、実践力が身につく
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 第2～4回：コミュニティワークの実践事例 第5回：コミュニティワーク概念の変遷 第6回：コミュニティワークの対象 第7回：コミュニティワークの理念 第8回：コミュニティワークのプロセスモデル 第9～13回：コミュニティワークの方法 地域アセスメント、プランニング、組織化活動、地域福祉計画、福祉教育 第14回：コミュニティソーシャルワーカーとコミュニティワーカー 第15回：まとめ

学修方法	発表、討論で進めていく
評価方法	レポート 50%、授業中の発表・討議・演習への参加 50%
課題に対するフィードバック	発表、討論のつど、フィードバックを丁寧に行う
指定図書	高森敬久：高田眞治・加納恵子・平野隆之著『地域福祉援助技術論』相川書房
参考書	日本地域福祉研究所監修『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』中央法規
事前・事後学修	事前に指定図書・論文を熟読する。発表担当者はレジュメにまとめ、報告する
オフィスアワー	科目責任者の研究室は 2606 です。時間については授業時に提示します。

科目名	ソーシャルワーク特論Ⅱ
科目責任者	福田俊子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋セメスター
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	ソーシャルワーク特論Ⅰ及びⅡでは、ソーシャルワークのなかでも主として個別支援にかかわる基本的な知識を確認し、理解することを目的とする。本科目においては、ソーシャルワークの展開過程の基盤となる「援助関係の形成」に焦点をあて、バ이스テックの 7 原則を取り上げながら、原則の構造を理解しその活用について学修する。
到達目標	1. バイステックの 7 原則とソーシャルワークの展開過程の関係について理解できる 2. バイステックの理論背景について理解できる 3. 7 原則の構造について説明できる
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：オリエンテーション 第 2・3 回： ケースワークにおける援助関係の本質、バイステックという人物 第 4 回：原則 1 クライアントを個人として捉える 第 5 回：原則 2 クライアントの感情表現を大切にする 第 6 回：原則 3 援助者は自分の感情を自覚して吟味する 第 7 回：原則 3 にかかわる事例 第 8 回：原則 4 受けとめる 第 9 回：原則 4 にかかわる事例 第 10 回：原則 5 クライアントを一方向的に避難しない 第 11 回：原則 6 クライアントの自己決定を促して尊重する 第 12 回：原則 6 にかかわる事例① 第 13 回：原則 6 にかかわる事例① 第 14 回：原則 7 秘密を保持して信頼感を醸成する 第 15 回：原則及びジレンマの構造、まとめ

学修方法	学生による発表及び討論で進めます。
評価方法	授業中の態度 50%、総括レポート 50%
課題に対するフィードバック	授業内の討議等で対応します。
指定図書	F・P・バイステック『ケースワークの原則[新訳改訂版]』誠信書房
参考書	随時、提示します。
事前・事後学修	事前に指定図書を熟読し、レジメにまとめる。 事後には、不明な事項を自ら調べる。
オフィスアワー	科目責任者の研究室は 2614 です。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	ソーシャルワーク特論演習
科目責任者	大 友 信 勝
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	1. 「貧困ソーシャルワーク」を研究するために、現代の貧困についての実証的な先行研究を取り上げ、福祉事務所における実践・研究報告を学びます。 2. 福祉事務所における社会福祉専門職の実態と動向、その問題点と今後の課題を検討します。 3. 事例研究や生活保護裁判の判例研究を行い、政策と実践の問題点を学び、改善・解決に向けた課題を検討します。
到達目標	「貧困ソーシャルワーク」は利用者の人権、尊厳、生活と生命に関わる専門性が求められ、専門職によって行われる実践であることを理解し、研究に生かす
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：「貧困ソーシャルワーク」は人間の尊厳とどう向き合っているかー事例研究の視点 第 3 回：札幌市姉妹孤立死事件（2012 年 1 月）の事例研究 第 4 回：生活保護「水際作戦」で約 10 回申請拒否された事例の研究 第 5 回：生活保護における「水際作戦」とは何かー歴史と現状 第 6 回：なぜ社会福祉は貧困を重視するのかー貧困の重層化と連鎖 第 7 回：子どもの貧困にみる「貧困の連鎖」ーソーシャルワークは何をやるのか 第 8 回：就学援助と最低賃金、非正規雇用の関連ー社会的セーフティネットの構築 第 9 回：貧困とスティグマ（恥の烙印）1ー生活保護バッシング 第 10 回：貧困とスティグマ（恥の烙印）2ー監視と密告の奨励 第 11 回：公的扶助研究運動とソーシャルワーク 第 12 回：生活保護におけるソーシャルワーク実践の実際 第 13 回：行政組織でソーシャルワーカーとして働くということ 第 14 回：「貧困ソーシャルワーク」の誇りとワーカー像 第 15 回：「貧困ソーシャルワーク」の明日を目指して

学修方法	個別指導と院生の発表を組み合わせます。院生に、協議の上、関心のあるところを報告してもらいます
評価方法	レポート 60%、討議への参加 40%で評価する
課題に対するフィードバック	課題提出後の面談を中心にフィードバックいたします。
指定図書	特定の指定図書はない。
参考書	授業中に随時連絡する。
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示したテーマを学修する。(40 分) 事後学修：授業内容を振り返る学修。(40 分)
オフィスアワー	研究室 (5703) にて、自由に研究相談に応じます 時間については、初回授業で提示します

科目名	ソーシャルワーク特論演習
科目責任者	佐藤順子
単位数他	2単位 (30時間) 選択 秋
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	ソーシャルワーク特論Ⅰ・Ⅱを踏まえ、コミュニティソーシャルワーク、コミュニティワークに係る課題について、各自の関心に基づいて研究し、その成果を報告し、討論することをおして理解を深める
到達目標	1. 地域福祉政策、コミュニティワーク、コミュニティソーシャルワークに係る事例報告、論文を読み、論点が理解できる 2. 自分の関心領域を明確化できる 3. 関心領域に関する先行研究を探索し、要点をまとめ、報告することができる 活発な集団討論ができ、理解を深めることができる
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 第2～6回：地域福祉、コミュニティワーク、コミュニティソーシャルワークに関する主要な研究論文を読み、批判的に考察する 第7回：地域福祉、コミュニティワークに関する関心領域の明確化 第8～14回：各自が関心をもつ領域に係る論文を探索し、まとめ、論議し、理解を深める 第15回：まとめ

学修方法	演習科目です。
評価方法	レポート 50%、授業中の報告・討議への参加 50%
課題に対するフィードバック	発表、討論のつど、フィードバックを丁寧に行う
指定図書	特になし
事前・事後学修	発表担当者はレジюмеにまとめ、報告する。 発表後は、討論を踏まえて再検討し、次回に活かす。
オフィスアワー	科目責任者の研究室は 2606 です。時間については授業時に提示します。

科目名	ソーシャルワーク特論演習
科目責任者	福田俊子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋semester
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	本科目では、ソーシャルワークの専門性にかかわる基本的な知識を修得した上で、スーパービジョンの基礎理論及びソーシャルワーカーの育ちにまつわる一連の実態調査研究について学びを深め、ソーシャルワークの専門性を再考する。
到達目標	1. 我が国及び北米における専門職問題について理解できる。 2. 我が国におけるソーシャルワーカーを対象とした育ちにかかわる先行研究を概括し、「成長とは何か」「専門性とは何か」について、自分なりの意見をもてるようになる。 3. ソーシャルワーカーを養成するためのシステムについて、自分なりの意見をもてるようになる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：オリエンテーション 第 2・3 回：北米における社会福祉専門職の歴史 第 4・5 回：我が国における社会福祉専門職問題の歴史と課題 第 6・7 回：社会福祉専門職の概念と条件 第 8 回：スーパービジョンの基礎理論 第 9 回：ソーシャルワーカーの育ちの過程①：初学者の実践 第 10 回：ソーシャルワーカーの育ちの過程②：新人の実践 第 11 回：ソーシャルワーカーの育ちの過程③：中堅の実践 第 12 回：ソーシャルワーカーの育ちの過程④：ベテランの実践 第 13 回：育ちを促進する要因 第 14 回：育ちを促進する装置 第 15 回：まとめ

学修方法	学生による発表及び討論で進めます。
評価方法	授業中の態度 50%、総括レポート 50%
課題に対するフィードバック	授業内の討議等に対応します。
指定図書	特に定めません。必読の論文を指定します。
参考書	随時、提示します。
事前・事後学修	事前に指定図書を熟読し、レジメにまとめる。 事後には、不明な事項を自ら調べる。
オフィスアワー	科目責任者の研究室は 2614 です。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	こども・家庭福祉特論Ⅰ
科目責任者	石川 瞭子
単位数他	2単位（30時間） 選択 春
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	こども・家庭福祉を研究するにあたって踏まえてはならない点はシステム論的認識論および生態学的認識論ならびに精神保健学的理解の必要性である。家族システム・拡大家族システム・個人システム・夫婦間システム・同胞間システム等、ヒエラルキーでとらえれば社会システム・地域システム・学校教育システム・職場システム等との関係性から家族やこどもの問題が形成されていることを学ばなくてはならない。また心理学や精神保健学の知識がないと人間関係は理解が進まない。それらは解決方法に具体的な示唆を与えるのに必要な要素・理論です。そうした学びを通して、混迷を深めるわが国のこども・家庭福祉の向上に貢献したい。つまり多様な価値観をもつ多様な生活者(こどもを含む)を理解し支援することに繋がるからである。理論を知り議論しそして研究をしていく。他の院生との切磋琢磨も大事にしていく。
到達目標	1. システム論的認識論・生態学的認識論を知る。精神保健学的・心理学的な多様な視野をもち児童・家族心理学上の諸問題を解決する支援技術を知る。具体的には社会構成主義の物語処方や短期療法、描画療法や家族療法等の意義を理解し、事例を通して対応の技術を習得する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：全体のオリエンテーション 本演習の意義と目的・到達点 第2回：児童・家庭システムとは何かを事例から理解する 第3回：院生が持参する機能不全家族の家族システムの事例を全員で読み解く 第4回：家族システムの中のサブシステムに関して事例から理解する 第5回：院生が持参する機能不全家族のサブシステム上の問題を読み解く 第6回：拡大家族システムに関して事例から理解する 第7回：院生が持参する機能不全家族の拡大家族システム上の問題を読み解く 第8回：社会システムの中の家族システムを理解する 第9回：院生が持参する社会システムの影響で機能不全に陥った家族の問題を読み解く 第10回：学校教育システムと児童・家庭システムに関して理解する 第11回：院生が持参した児童問題のうち学校教育システム上の問題を読み解く 第12回：職場システムと児童・家庭システムに関して理解する 第13回：院生が持参する職場システムが家族システムに影響を及ぼした事例を読み解く 第14回：地域システムと児童・家庭システムに関して理解する 第15回：院生が持参する地域システム上の問題が家族システムに与えた事例を読み解く 以上は例であり各院生の状況により授業内容は柔軟に変化させる。基本的にひとりひとりに対応した進行方法を用いる。

学修方法	多くは多様な問題を持ち回りで議論する。教師が事例を提示する場合もある。多角的なものの見立ての練習から様々な理論を会得し、そこから研究テーマを志向する。
評価方法	事例を読み解くときに議論をするのでその参加態度で評価する 80%。レポート 20%。 また月一回開催される事例検討会に参加し他職種との交流を通して連携・協働を学ぶ機会があるが、そこでの参加態度も加味する。
課題に対するフィードバック	年 2 回開催される研究計画検討会の発表内容へのアドバイスと発表後のフィードバックを中心として、関連学会発表や論文投稿の指導等を通してフィードバックをそのつど行う。
指定図書	研究領域がことなるため必要が生じた場合は院生と相談する。
参考書	各院生の研究内容が異なるために必要に応じて話し合いで決めていきたい。
事前・事後学修	社会の多様な出来事に関心を抱き、どのようにしたら解決・改善がなされるのか常に考え、生活してほしい。事前・事後学習は院生の研究に対する主体性を涵養することで、関連論文を読むだけでなく関連著書も熟読する熱心さをもとめたい。
オフィスアワー	連絡は ryoko-i@seirei.ac.jp へ。研究室は 5 号館の 7 階 5709 研究室。授業への質問や研究の進め方等の相談事は事前に研究指導の予定がないことをメールで確認してから来室するようにしてほしい。来室は歓迎します。社会福祉学研究科

科目名	こども・家庭福祉特論Ⅰ
科目責任者	藤田 美枝子
単位数他	2単位（30時間） 選択 春semester
科目の位置付	(2)高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	ソーシャルワークは、人々が抱える個別的で具体的な課題の解決を目指していくが、そのプロセスでは様々な実践的アプローチの中から最適なものを選択する必要がある。 ここでは、当事者による自発的な問題解決能力を引き出すためのエンパワメント・アプローチを取り上げ、増加し続ける子ども虐待に対する効果的な支援としての新しい可能性を探る。 子ども虐待への対応におけるエンパワメントの視点とは、問題解決能力を持っているという前提で当事者を受け止め、当事者と複数の問題解決法等を考え、当事者自身の解決能力を引き出すことである。これらに重点を置く取組みについて文献と事例から学ぶ。
到達目標	1. 現在の児童・家庭福祉領域における子ども虐待の問題について、歴史・法律・対応等の広い視野から理解する。 2. 子ども虐待への対応の中核機関である児童相談所および区市町村の現状と課題を把握する。 3. 子ども虐待へエンパワメントの視点から介入することが、問題解決に効果的であることを実践事例等から理解する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 第2-3回：諸外国とわが国の子ども虐待における対応の歴史 第4-5回：現代における子ども虐待の定義（法律における定義、マルトリートメント） 第6-7回：子ども虐待に関する先行研究 第8-9回：子ども虐待をめぐる最近の動向 第10-11回：子ども虐待への対応における現状の問題点 第12-13回：エンパワメントの概念と定義 第14-15回：エンパワメント概念の普及

学修方法	講義だけでなく、最近の社会的動き等を意識しながら新聞や文献を読んで学びを深める。
評価方法	自ら問題意識を持って進める態度で評価する。
課題に対するフィードバック	毎回リアクションペーパーの意見や問題提起を共有しながら進める。
指定図書	必要に応じて紹介する。
参考書	必要に応じて紹介する。
事前・事後学修	自分の関心のある領域の本を読む。 授業での議論等をまとめる。
オフィスアワー	社会福祉学研究科、2610 研究室、時間については初回授業時に提示します。

科目名	こども・家庭福祉論特論Ⅰ
科目責任者	太田 雅子
単位数他	2単位（30時間） 選択 春semester
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	乳幼児の発達や子育てをめぐる今日の問題や課題についてそれぞれが情報収集・文献調査を行い、それをもとに意見交換や考察を行い、子どもの健全な育ち・より幸福なこども時代を送るための環境作りや支援、保育（家庭保育）の方法について検討する。
到達目標	1. 子どもを取り巻く現状と課題を理解する。 2. 様々な文献・論文を講読し、分析・考察する力を養う。 3. 子ども・家庭福祉に関する自らの研究課題を明らかにし、研究の方向性を定める。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第1回：オリエンテーション 第2回：研究の方法—種類 第3回：研究の方法—分析 第4回：研究テーマの選択と進め方・概要 第5回：研究テーマの方向性・研究計画 第6回：文献講読「子どもを取り巻く環境」 第7回：「子どもを取り巻く環境」事例検討 第8回：文献講読「仕事と家庭の両立・男性の育児参加」 第9回：「男性の育児参加」事例検討 第10回：文献講読「子どもの健全な育ち—発達課題」 第11回：「発達課題」について事例検討 第12回：文献講読「親の貧困、未熟性（育児能力の低下）と支援」 第13回：「貧困・育児能力の低下」事例検討 第14回：文献講読「親の精神的問題うつや発達障害等）と支援」 第15回：「親の精神問題」に関する事例検討

学修方法	講義、討議、学外調査、発表（プレゼンテーション）の組み合わせで行います。
評価方法	個々の授業・討議への参加 40%、プレゼンテーション（調査レポート・発表） 60%
課題に対するフィードバック	提出された課題に対してコメントを記載または口頭でフィードバックを行います。
指定図書	プリントを配布
参考書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	授業内に提示する文献を調べる、または配布の文献を読んで置いてください。 不明な専門用語を事前に調べておいてください。
オフィスアワー	初回にお知らせします。

科目名	こども・家庭福祉特論Ⅱ
科目責任者	石川 瞭子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	こどもの問題と家族の問題とは複雑に交差して独自の形で表出される。家族はシステムである点は春セメで理解できたとしても、問題はシステムとして構造化される点の理解はたやすいことでない。秋セメでは問題の構図として主訴・症状・問題を解き明かしていく。それは解決の方法と方向を決定づけている。こどもの問題の多くは夫婦システムのゆがみから生じている場合が多いのは指摘するまでもない。たとえば家庭内離婚状態のなかで育った子が人を信じられず、社会参加に希望を見いだせないのは当然のことである。そうした環境で育てば非行に走ったり、引きこもりになったりする子もいる。本講では子の問題を解決するためにどのような解決方法があるか解決事例から技術と理論を会得する。
到達目標	社会構成主義・家族療法・短期療法・夫婦療法・物語処方・外在化処方・描画療法など欧米で汎用されているファミリーソーシャルワーク技法を学び、事例の解決方法の具体例を通して適宜使い分ける方法を会得する。ファミリーソーシャルワークの技術の基礎から応用までを理論と実際を通して取得することを目標とする。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：本校の進め方 意義とも目的と到達点 第2回：社会構成主義の理解 なぜ社会構成主義が生まれたか 歴史的考察 第3回：社会構成主義の実際 「言葉が世界を構成する」とは 第4回：家族療法 家族システム理論の発展と問題点 その解決方法とは 第5回：夫婦療法 夫婦のコミュニケーションの特徴 日本の夫婦の問題の解決方法 第6回：拡大家族とのコミュニケーションの特徴 日本の「家」制度の問題の解決方法 第7回：子どもの問題の解決 主訴を巡って 解決方法 第8回：子どもの問題の解決 症状を巡って解決方法 第9回：子どもの問題は家族の問題の構造化されたもの、家族システムの解決方法 第10回：夫婦システムは祖父母家族の関係性から影響を受けている「世代連鎖」を断ち切る方法 第11回：不登校を例に児童・家庭問題の解決方法を理解する 事例によって違う解決方法 第12回：児童の諸問題を解決するための家族療法を理解する 事例によって違う家族療法 第13回：物語処方・外在化処方の事例を用いて理解する 解決事例から考察する 第14回：家族描画療法の事例を用いて理解する 解決事例から考察する 第15回：児童・家庭福祉の精神保健、家族のリスクマネジメント まとめ 以上は例事であり院生の研究の進捗状況により柔軟に授業を変更することもある。特論演習 1 の流れの延長として対応を変化させることがある。

学修方法	議論参加型で実際の事例をもとに参加院生とともに具体的解決を模索する。関連図書および関連論文を読破することを求めたい。社会の出来事を幅広く理解し知見を深めて議論を行う。
評価方法	事例を読み解くときの議論への参加 80% レポート 20% 月一回開催される事例検討会に積極的に参加しリーダー的役割を務めることを勧める。
課題に対するフィードバック	年2回の研究計画検討会の発表前にアドバイスをを行い発表後に取り組みについてフィードバックを行う。また学会発表・論文投稿の支援を通して院生の研究への取り組みにフィードバックを行う。また他の院生とのディスカッション参加の状況についてもフィードバックを行う。
指定図書	必要あれば個々人に提示することはある。特に指定はしない。
参考書	必要あれば個々人に指示あり。特に指定はしない。
事前・事後学修	時事問題に関心を持ち日ごろから防止方法を検討しておくこと。関連する領域に対する文献等を深く読み込むことを事前学習として、自らの論文等を振り返りながら研究内容を深めることを主体的に行うことを事後学習とする。
オフィスアワー	研究室は5号館7階 5709研究室 ryoko-i@seirei.ac.jp へメール連絡の上に来室は事前に申し込みをしてほしい。相談や質問等は歓迎します。社会福祉学研究科。 毎週土曜日は研究室に来て相談等をすることを勧めたい。

科目名	こども・家庭福祉特論Ⅱ
科目責任者	藤田 美枝子
単位数他	2単位（30時間） 選択 秋セメスター
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	ソーシャルワークは、人々が抱える個別的で具体的な課題の解決を目指していくが、そのプロセスでは様々な実践的アプローチの中から最適なものを選択する必要がある。 ここでは、当事者による自発的な問題解決能力を引き出すためのエンパワメント・アプローチを取り上げ、増加し続ける子ども虐待に対する効果的な支援としての新しい可能性を探る。 子ども虐待への対応におけるエンパワメントの視点とは、問題解決能力を持っているという前提で当事者を受け止め、当事者と複数の問題解決法等を考え、当事者自身の解決能力を引き出すことである。これらに重点を置く取組みについて文献と事例から学ぶ。
到達目標	1. 現在の児童・家庭福祉領域における子ども虐待の問題について、歴史・法律・対応等の広い視野から理解する。 2. 子ども虐待への対応の中核機関である児童相談所および区市町村の現状と課題を把握する。 3. 子ども虐待へエンパワメントの視点から介入することが、問題解決に効果的であることを実践事例等から理解する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1-2回：心理学および社会福祉におけるエンパワメントの先行研究 第3-4回：子ども虐待の対応へエンパワメントを導入する必要性 第5-6回：児童相談所および区市町村の仕組みと支援体制 第7-8回：虐待する親への予防的支援と当事者参加 第9-10回：被虐待児への心理面接における支援 第11-12回：県内市町の子ども家庭福祉への質問紙調査およびインタビュー調査 第13-14回：虐待する親と被虐待児への支援におけるエンパワメントの視点 第15回：まとめ

学修方法	講義だけでなく、最近の社会的動き等を意識しながら新聞や文献を読んで学びを深める。
評価方法	自ら問題意識を持って進める態度で評価する。
課題に対するフィードバック	毎回リアクションペーパーの意見や問題提起を共有しながら進める。
指定図書	必要に応じて紹介する。
参考書	必要に応じて紹介する。
事前・事後学修	自分の関心のある領域の本を読む。 授業での議論等をまとめる。
オフィスアワー	社会福祉学部、2610 研究室、時間については初回授業時に提示します。

科目名	こども・家庭福祉特論Ⅱ
科目責任者	太田雅子
単位数他	2単位（30時間） 選択 秋semester
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	乳幼児の発達や子育てをめぐる今日の問題や課題についてそれぞれがフィールド調査を行い、それをもとに意見交換や考察を行う。それによって子どもの健全な育ち・より幸福なこども時代を送るための環境作りや支援、保育（家庭保育）の方法を見出すことを目的とする。
到達目標	1. 子どもを取り巻く現状と課題から自分の研究テーマを見出す。 2. 子ども・家庭福祉に関する自らの研究課題を明らかにし、研究の方向性を定める。 3. フィールドスタディを計画し・実行した結果を分析・考察する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：各自の研究テーマについての発表① 第2回： 各自の発表に対する討議 第3回：発表・討議からのまとめ 第4回：各自の研究テーマについての発表② 第5回：発表に対する討議 第6回：発表・討議からのまとめ 第7回：フィールドスタディ（視察調査） に向けた準備—調査目的 第8回：フィールドスタディに向けた 第9回：フィールドスタディの実際 準備—方法の検討 第10回：フィールドスタディの実際2回目 第11回：フィールドスタディの実際3回目 第12回：フィールドスタディの実際4回目 第13回：報告書の作成 第14回：報告書からのプレゼンテーション 第15回： まとめ

学修方法	講義、討議、学外調査、発表（プレゼンテーション）の組み合わせで行います。
評価方法	個々の授業・討議への参加 40%、プレゼンテーション（調査レポート・発表） 60%
課題に対するフィードバック	授業内に提示する文献を調べる、または配布の文献を読んで置くこと 不明な専門用語を事前に調べておくこと
指定図書	プリントを配布。
参考書	随時紹介します。
事前・事後学修	授業内に提示する文献を調べる、または配布の文献を読んでおいてください。 不明な専門用語を事前に調べておいてください。
オフィスアワー	初回にお知らせいたします。

科目名	こども・家庭福祉特論演習
科目責任者	藤田 美枝子
単位数他	2単位（30時間） 選択 秋セメスター
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	研究テーマを決め、先行研究や関連する文献を検索し、読み込みを行い、ノートを作成する。研究目的と方法を明確にし、研究計画を立てる。
到達目標	1. 先行研究や文献を検索し、講読し概要をまとめる。 2. 研究目的と方法を明確にして、研究計画書を作成する。 3. データの収集や分析について理解する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 授業日程等については、受講者と相談しながら調整する。 1. オリエンテーション 2. 先行研究や文献の調査・講読・概要のまとめ 3. 研究計画書の作成 4. データ収集のための様々な方法 5. データの分析と結果・考察のまとめ方

学修方法	講義だけでなく、最近の社会的動き等を意識しながら新聞や文献を読んで学びを深める。
評価方法	自ら問題意識を持って進める態度で評価する。
課題に対するフィードバック	毎回リアクションペーパーの意見や問題提起を共有しながら進める。
指定図書	必要に応じて紹介する。
参考書	必要に応じて紹介する。
事前・事後学修	自分の関心のある領域の本を読む。 授業での議論等をまとめる。
オフィスアワー	社会福祉学研究科、2610 研究室、時間については初回授業時に提示します。

科目名	こども・家庭福祉特論演習
科目責任者	石川 瞭子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	児童・家庭福祉の押さえなくてはならない領域は広い。社会福祉の専門知識だけでなく心理学・精神保健学・社会学・教育学などの周辺領域も密接に関連している。つまりこども・家庭福祉はどの視点からもアプローチできる可能性を示唆している。院生各自が研究したい視点を定め、研究する意義と目的にそって共に思考を深め、研究を進めたい。
到達目標	1. こども・家庭福祉特論演習は多様なアプローチがあり、またカバーしなくてはならない領域も多様なため院生が目的を定め、そこでの意義を見つけ、先行研究等を研究し、今までの臨床を振り返り吟味し、思考を深め、修士論文にするために他の院生とともに議論を重ねていきたい。研究のデザインは時間をかけて煮詰めたい。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 授業計画の詳細については院生の個々のテーマの違いがあるので個別に面接を行い、指導を検討したい。更に年に複数回博士課程と者牛課程の交流会を開催し相互研鑽を進める。それらのスケジュールは授業の開始時に協議して決めたい。内容は概ね以下である。 (1) 何を研究テーマとし、どの内容を研究の対象とし、どの程度深化させるかを検討する 研究のアウトラインを検討する (2) 研究対象は独自性があり先駆的であるかの検討を行う。先行研究のレビュー等 研究のより具体的デザインを設計する (3) 研究方法を決める 量的研究か質的研究か。 既に決めている者も再度研究方法の妥当性を検討する (4) データー等の調査が必要な研究の場合、本学の倫理委員会に審査を依頼する (5) データー収集後のデーター処理 あるいはエスノグラフィ等の方法から得た情報の処理 データーの利用上の倫理や内容の妥当性等の検討 (6) 調査研究を考察し、他の院生と指導教員と議論し、視点を拡大する 多様な視点、多様な価値観や多様な意義をその研究から引き出す社会性 (7) 考察の内容を項目として挙げる。優れて臨床性に富むか、そのためにはどのような提案が望ましいか具体的に検討する。 (8) 提案する内容の禁忌を具体的に検討する。 (9) 研究の全体の理論の整合性を高める 要旨と論文の整合性を確認する 以上は院生の個々の状況によって適宜調整を図りながら院生同志の切磋琢磨を刺激し進行する。 なによりも主体的に研究活動するために意識の涵養を図る。

学修方法	半期は個別指導と院生同志によるディスカッションでこども・家庭福祉の関連領域等の理解を深め、後半は個別指導で個々人の研究テーマを煮詰める。土曜日は可能な限り参加して欲しい。
評価方法	目的意識をもち研究活動に参加して自我を鍛え、研究を深化させ、社会に貢献する提案を行ってほしい。研究を自発的に進行している態度 60%、研究あるいはレポート 40%である。
課題に対するフィードバック	年2回開催される研究計画検討会の参加教員や他のゼミ院生からのフィードバックを大切にし教員ともに吟味し、学会発表・学会誌への投稿を促し、そのたびに課題への取り組みをフィードバックする。
指定図書	各院生の研究内容によって使用すると図書が異なるので相談しながら決めていきます。
参考書	なし。参考になる図書は必要に応じて一緒に検討していく。
事前・事後学修	研究テーマに関して事前あるいは事後も関連する情報に敏感に収集すること。関係論文だけでなく著書やメディア報道にも関心をもって情報を主体的に集める。事後学習としては研究の深化と進化を期待したい。
オフィスアワー	研究は楽しいと思えるように多様な価値観や多様な文化に触れる生活をしてほしい。 連絡は ryoko-i@seirei.ac.jp へ。研究室は5号館7階の5709研究室。論文指導予定がないか確認してから来室してほしい。来室は歓迎する。社会福祉学研究科所属

科目名	こども・家庭福祉特論演習
科目責任者	太田雅子
単位数他	2単位（30時間） 選択 秋semester
科目の位置付	(4)研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5)研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	研究テーマを決め、関連する文献を検索し、文献レビューを行い、ノートを作る。 研究目的・方法を明確にして研究計画を作成する。
到達目標	1. 文献レビューを確実に行うことができる。 2. 研究計画書を作成することができる。 3. データの収集・分析について理解を深めることができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> ※ 授業日程については、受講者と相談・調整を行う。 1. オリエンテーション 2. 文献調査・講読とレビューについて 3. 研究計画書（プロポーザル）の作成について 4. データ収集のための様々な方法 5. 分析・考察の進め方

学修方法	講義、討議、発表・報告、計画書作成等の組み合わせで行います。
評価方法	文献レビュー 50% 研究計画 50%
課題に対するフィードバック	文献レビューや研究計画報告・発表に関して、その都度、フィードバックをします。
指定図書	プリントを配布。
参考書	随時紹介します。
事前・事後学修	授業内に提示する文献を調べる、または配布の文献を読んでおいてください。 不明な専門用語を事前に調べておいてください。
オフィスアワー	初回にお知らせいたします。

科目名	高齢者・障害者福祉特論Ⅰ
科目責任者	染谷 淑子
単位数他	2単位（30時間） 選択 春
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	本特論は、高齢者福祉の課題と社会的役割について、高齢者の自立を支える社会的支援、および家族の役割と機能について、基本的な知識を修得し、理解を深める。さらに、日本の高齢者福祉の変遷を学び、高齢者福祉の今後の対応について考察する。また、世界的に高齢化が進む現状の理解と、諸外国の対応を学ぶ。
到達目標	1. 日本社会の人口動態の変化に伴う社会変貌を学ぶ。 2. 超高齢社会における高齢者の扶養について理解する。 3. 家族関係の変化と老親扶養の問題点と課題について学ぶ
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 第2回：高齢者福祉の起源とその社会的背景 第3回：高齢者福祉の歴史的考察 第4回：高齢者福祉の社会的役割 第5回：高齢者福祉の目的 第6回：現代日本社会における高齢者福祉のニーズ 第7回：現代日本社会における、高齢者福祉の役割と機能 第8回：日本の高齢者福祉政策の展開：20世紀の施策 第9回：21世紀の高齢者福祉：介護保険の発足 第10回：介護保険の役割と機能 第11回：介護保険運用の実態と課題 第12回：地域社会を基盤とする高齢者福祉 第13回：日本の高齢者問題の諸相とその対応 第14回：超高齢社会日本の今後の課題 第15回：まとめ

学修方法	事前に教材を読み、要約、課題等とレポートし、授業時に論点を議論しつつ理解を深める。
評価方法	授業の対する積極的な態度としての平常点を 50%、学期末レポートを 50%とする。
課題に対するフィードバック	前回の授業の要点について、毎回の授業の初めに理解の程度を確認し、次のテーマに進む。
指定図書	特になし。
参考書	随時紹介する。
事前・事後学修	毎回の授業に備え各自が準備をし、授業後にまとめノートを作成する。
オフィスアワー	時間については、授業初回時に提示する。研究室 5702

科目名	高齢者・障害者福祉特論Ⅰ
科目責任者	横尾 恵美子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	高齢者や障がい児者の尊厳の保持し、自立生活支援を行うこと、そして可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう支援することが我が国の政策としても打ち出されています。高齢者や障がい児者だけでなく、家族や地域を含めた支援の確立に向けての取り組みが必要とされています。 本講は高齢者や障がい児者の福祉領域における様々な課題を取り上げ、考察を深めていきます。社会福祉実践や社会福祉専門職の現状等についても検討を深めます。
到達目標	1. 高齢者福祉援助実践を研究として深めるための方法論や技法を検討することができる。 2. 高齢者や障がい児者の尊厳を保持する地域生活支援について検証することができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 研究基礎 第1回：実践を研究する意義等 第2回：先行研究探索(高齢者・障害者領域) 第3回：研究テーマの方向性 第4回：調査研究を読み解く 生活と経済 第5回：要支援・要介護者の生活実態と家族機能 第6回：高齢者や障がい者の孤立化 第7回：貧困と就労 第8回：軽微な犯罪を繰り返す高齢者・障がい者の実態と支援 第9回：権利擁護と支援（成年後見制度等） 高齢者や障害児者の生活の困難性 第10回：生活の困難性について 第11回：地域で暮らす（社会的存在であり続けること）と支援 第12回：介護者の孤立 第13回：家族や地域へのアプローチ 第14回：社会福祉実践の総合的検討 ① （実践事例・研究論文等の検証） 第15回：社会福祉実践の総合的検討 ② （文献レビュー）第1回：

学修方法	毎回のテーマになっている分野の論文等を探索し、抄読、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。
評価方法	授業の参加状況（50％）課題発表（50％）
課題に対するフィードバック	課題については授業内にて指導を行う
指定図書	特になし
参考書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	授業前に提示した授業計画の各内容についてその都度自己学習をしてくる。 各授業内容を応用した自己の研究や実践について考察を深める。
オフィスアワー	初回演習時に提示します。

科目名	高齢者・障害者福祉特論Ⅱ
科目責任者	染谷 淑子
単位数他	2単位（30時間） 選択 秋
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	本特論は、春学期の「高齢者・障害者福祉特論Ⅰ」における、日本の高齢者福祉の発展と現状を十分理解したことを前提に展開する。欧米の福祉先進諸国の現状、および少子高齢化の進むアジア諸国の高齢者福祉について、現状と課題に関する理解と考察を深める。
到達目標	1. 老親扶養の家族と社会の役割と機能について学ぶ。 2. 福祉先進諸国の老人福祉政策の理解を深める。 3. アジア諸国の高齢者福祉の課題と現状について、理解を深める。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 第2回：老親扶養の家族の役割。 第3回：老親扶養に関する公的な支援 第4回：北欧福祉先進国の高齢者福祉（スウェーデン） 第5回：北欧福祉先進国の高齢者福祉の現状と課題（スウェーデン） 第6～7回：イギリスの高齢者福祉 第8～9回：オーストラリアの高齢者福祉 第10～11回：アメリカの高齢者福祉 第12回：欧米先進諸国の福祉の類型 第13～14回：アジアの高齢者福祉の現状と課題（韓国、シンガポール、台湾など） 第15回：まとめ

学修方法	事前に教材を読み、要約、課題等とレポートし、授業時に論点を議論しつつ理解を深める。
評価方法	授業に対する積極的な態度としての平常点を 50%、学期末レポートを 50%とする。
課題に対するフィードバック	前回の授業の要点について、毎回の授業の初めに理解の程度を確認し、次のテーマに進む。
指定図書	特になし。
参考書	随時必要に応じて紹介する。
事前・事後学修	毎回の授業に備え各自が準備をし、授業後にまとめノートを作成する。
オフィスアワー	時間については、授業初回時に提示する。研究室 5702

科目名	高齢者・障害者福祉特論Ⅱ
科目責任者	横尾恵美子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	高齢者・障がい児者の福祉を考える視点として、社会的存在としての生活を重視する。生活の困難性に対する制度やサービス、ネットワークについて学ぶ。 高齢者・障害者福祉領域における様々な課題を取り上げ、考察を深める。高齢者・障がい児者福祉専門職の現状や課題についても検討を深める。
到達目標	1. 高齢者や障がい児者の尊厳を保持する生活支援のための制度や政策、ネットワークを学ぶ。 2. 高齢者・障がい児者の支援専門職の現状や課題について検証し、解決策を提案できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> 制度・サービス・ネットワーク 第 1 回：高齢者・障がい児者の福祉制度 第 2 回：文献紹介・（高齢者・障害者領域） 第 3 回：文献紹介・ディスカッション（制度の課題について） 第 4 回：課題発表・ディスカッション（ネットワークについて） 専門職種の現状と課題 第 5 回：文献紹介・ディスカッション（実態について） 第 6 回：文献紹介・ディスカッション（課題について） 第 7 回：文献紹介・ディスカッション（課題解決に向けて制度の課題について） 第 8 回：文献紹介・ディスカッション（テーマは自由） 第 9 回：文献紹介・ディスカッション（テーマは自由） 文献レビュー 第 10 回：課題発表・ディスカッション 第 11 回：課題発表・ディスカッション 第 12 回：課題発表・ディスカッション 第 13 回：課題発表・ディスカッション 第 14 回：課題発表・ディスカッション 第 15 回：課題発表・ディスカッション

学修方法	毎回のテーマになっている分野の論文等を探索し、抄読、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。
評価方法	課題の取組み（30%）、プレゼンテーション（30%）、ディスカッション（40%）
課題に対するフィードバック	課題については授業内にて指導を行う
指定図書	特になし
参考書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	授業前に提示した授業計画の各内容についてその都度自己学習をしてくる。 各授業内容を応用した自己の研究や実践について考察を深める。
オフィスアワー	初回授業時に提示します。

目名	高齢者・障害者福祉特論演習
科目責任者	染谷淑子
単位数他	2単位（30時間） 選択 秋
科目の位置付	(4)研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5)研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	当演習では、前期に修得した基本的な知見を基に、多くの文献・資料を読みこなし、さらなる考察と理解を深めることを目指す。履修生各自の研究課題に即したアプローチにより、毎週の発表、質疑応答、議論を通し、課題の理解と考察をはかる。それにより、各自の研究課題の追及および、課題の整理を図る。
到達目標	1. 各自の研究課題を明確化する。 2. それぞれの課題について、文献検索、資料収集の方法を習得する。 3. 収集した知見を整理し、課題の考察を行う。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション、今学期の達成目標を定める。 第2回：履修生の問題関心に即し、研究テーマを設定する。 第3回：各自の研究テーマを中心に、文献資料の検索を行う。 第4～13回：検索した文献・資料に基づき、毎週文献を精読し、輪番で発表を行い、質疑応答を重ねる。 第14～15回：今期セメスターに設定した研究課題をまとめ、各自が今学期の研究成果の発表を行う。その発表をまとめ、学期末レポートとして提出する。

学修方法	図書館を利用し、文献資料を検索し、資料を収集する。
評価方法	毎週の授業における平常点を 50%、学期末のレポートを 50%とする。
課題に対するフィードバック	前回の授業の要点について、毎回の授業の初めに理解の程度を確認し、次のテーマに進む。
指定図書	特になし。
参考書	随時紹介する。
事前・事後学修	毎回の授業に備え各自が準備をし、授業後にまとめノートを作成する。
オフィスアワー	時間については、初回授業時に提示する。研究室 5702

科目名	高齢者・障害者福祉特論演習
科目責任者	横尾 恵美子
単位数他	2単位（30時間） 選択 秋
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	高齢者・障害者福祉特論Ⅰの内容をふまえ、高齢者・障害者福祉実践の研究計画の作成を行う。具体的には各自の疑問や関心のあるテーマの論文を取り上げ、グループ討議を行い、研究テーマの絞り込みを行い、研究計画書の作成を行う。これらの過程を通して自己の研究テーマを明確化し、そのうえで仮説の設定からその検証という一連の流れである研究手法を身に着ける。高齢者や障害者の福祉領域のみの先行研究と検討するのではなく、幅広く社会福祉学、看護学、心理学、社会学等々の隣接する領域の知見も深める。質的研究や量的研究の手法についても学び、高い客観性・妥当性が担保された論文の作成技法を修得する。
到達目標	1. 研究テーマを設定して、研究概念枠組みを検討して研究計画書を作成する。 2. 研究計画書を基に倫理委員会の申請書を作成し、承認を得ることができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 第2回：研究の基礎知識 ① 研究とは何か 第3回：研究の基礎知識 ② 文献検索の方法 第4回：研究の基礎知識 ③ 研究における倫理的配慮 第5回：研究テーマの設定 ① 研究の進め方 第6回：研究テーマの設定 ② 疑問や発見とリスト 第7回：研究テーマの設定 ③ 研究デザイン 第8回：研究枠組み ① 概念枠組みとは 第9回：研究枠組み ② 用語の操作的定義について 第10回：研究枠組み ③ 研究疑問からの仮説について 第11回：研究計画書の作成 ① 第12回：研究計画書の作成 ② 第13回：研究計画書の作成 ③ 第14回：倫理申請書の作成 ① 第15回：倫理申請書の作成 ②

学修方法	講義や討議、発表などの形式で行う。
評価方法	授業の主体的な参加状況（30％） 計画書の完成度（70％）
課題に対するフィードバック	課題については授業内にて指導を行う
指定図書	特になし
参考書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	自分の関心領域の論文を探索し、独創的かつ実践可能、介護福祉援助実践に応用できる研究な研究テーマを設定し、研究計画書を作成する。
オフィスアワー	初回授業時に提示します。

科目名	介護福祉特論Ⅰ（ケアワーク論・介護福祉人材育成論）
科目責任者	野田由佳里
単位数他	2単位（30時間） 選択 春セメスター
科目の位置付	(2)高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	・介護の社会化を資格制度と人材育成の両側面から理論的・体系的に考えながら、必要な理論と知識について講義を行う。 ・介護福祉士のキャリアパスについて職業能力から専門性を捉え学問体系について検討を行う。 ・今後の人材の質の向上・量の確保のために、介護人材育成に必要な基礎知識や養成プログラム各種研修制度について概説する。
到達目標	1. 介護福祉分野および関連諸科学における主要な理論や概念に関する理解を深め、適切な用語を用いて説明できる。 2. 介護福祉士養成科目に関する知識、理論を習得し、解説することができる。 3. 介護福祉領域における任用資格などの養成に必要な基礎知識や養成プログラムの中身について説明できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：生活支援の基礎理論Ⅰ「介護福祉の基礎となる人への理解」 第2回：生活支援の基礎理論Ⅰ「介護福祉の基礎となる専門性」 第3回：生活支援の基礎理論Ⅰ「介護福祉の基盤となる介護の歴史」 第4回：生活支援の基礎理論Ⅰ「介護福祉の基礎となる健康」 第5回：生活支援の実践「生活の連続性と生活支援の実践」 第6回：生活支援の実践「ICFと介護過程の展開」 第7回：生活支援の実践「介護福祉の概念」 第8回：生活支援の実践「生活支援の実際」 第9回：生活支援の実践「多職種の連携」 第10回：介護福祉論「介護福祉の概念」 第11回：介護福祉論「介護問題の背景」 第12回：介護福祉論「介護福祉士の役割」 第13回：介護福祉論「尊厳を支える介護」 第14回：介護福祉論「介護実践における連携」 第15回：介護福祉論「介護従事者の倫理」

学修方法	「講義」を中心に行いますが、適宜「討議」も行います。
評価方法	レポート 60%、討議への参加 40%によって評価する。
課題に対するフィードバック	課題提出後の面談または moodle にて課題に対するフィードバックを行います。
指定図書	『「地域ケアを拓く介護福祉学」シリーズ 生活支援の基礎理論Ⅰ』光生館 『「地域ケアを拓く介護福祉学」シリーズ 生活支援の実践』光生館
参考書	『介護福祉論』学文社・『一番ヶ瀬社会福祉理論の再検討』ミネルヴァ書房 『ケアの本質 メイヤロフ』
事前・事後学修	事前学習：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40 分) 事後学修：講義内容について振り返り整理しておく。(40 分)
オフィスアワー	社会福祉学部所属の野田由佳里研究室 (2706 研究室) にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	介護福祉特論Ⅰ（生活支援論・自立支援介護）
科目責任者	古川 和稔
単位数他	2単位（30時間） 選択 春セメスター
科目の位置付	(2)高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	施設完結型介護ではなく、地域型の介護福祉実践に必要な理論と知識について講義を行う。介護職が中心となるチームで、多職種と連携し、多様な支援を行うための知識、要介護高齢者の自立性回復に向けた支援のために必要な自立支援介護の基礎知識について解説する。
到達目標	1. 介護福祉分野および関連諸科学における主要な理論や概念に関する理解を深め、適切な用語を用いて説明できる。 2. 最新の知識、理論を習得し、研究論文に反映させることができる。 3. 自立支援介護に必要な、基本的な生理学の知識について説明できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> 第1回：介護福祉士による生活支援 介護福祉士の役割、価値・知識・技術 第2回：地域ケアを拓く介護福祉士像 第3回：生活支援における介護福祉士の役割 第4回：介護福祉実践の対象① 物的環境への働きかけ 第5回：介護福祉実践の対象② 人的環境への働きかけ 第6回：介護福祉士に求められる専門的な生活支援技術の構造 第7回：利用者と協働する力 第8回：介護チーム・他職種との協働の基盤としての専門知識 第9回：自立支援介護と生理学 自立支援介護および高齢者ケアの基本について理解する。 第10回：水の生理学(1) 体内における水分のはたらきについて理解する。 第11回：水の生理学(2) 水分のケアがもたらす効果について理解する。 第12回：水の生理学(3) 慢性心不全と水分ケアについて理解する。 第13回：食事ケアの生理学(1) 口腔機能の廃用症候群について理解する。 第14回：食事ケアの生理学(2) むせの原因とむせさせないための5原則について理解する。 第15回：食事ケアの生理学(3) 常食化のための基礎理論について理解する。

学修方法	「講義」を中心に行いますが、適宜「討議」も行います。
評価方法	レポート 60%、討議への参加 40%によって評価する。
課題に対するフィードバック	課題提出後の面談または moodle にて課題に対するフィードバックを行います。
指定図書	『地域ケアを拓く介護福祉学』シリーズ 生活支援総論』光生館 『介護の生理学』秀和システム
参考書	授業中に随時連絡します。
事前・事後学修	事前学習：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40 分) 事後学修：講義内容について振り返り整理しておく。(40 分)
オフィスアワー	社会福祉学部所属の古川和稔研究室 (2712 研究室) にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	介護福祉特論Ⅱ（ケアワーク論・介護福祉人材育成論）
科目責任者	野田由佳里
単位数他	2単位（30時間） 選択 秋セメスター
科目の位置付	(2)高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	・介護の社会化を資格制度と人材育成の両側面から理論的・体系的に考えながら、必要な理論と知識について講義を行う。 ・介護福祉士のキャリアパスについて職業能力から専門性を捉え学問体系の検討を行う。 ・今後の人材の質の向上・量の確保のために、介護人材育成に必要な基礎知識や養成プログラム各種研修制度について概説する。
到達目標	1. 介護福祉分野および関連諸科学における主要な理論や概念に関する理解を深め、適切な用語を用いて説明できる。 2. 人材育成・外国人介護士に関する知識、理論を習得し、文章化することができる。 3. 介護人材育成に必要な基礎知識や養成プログラムの中身について説明できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：介護福祉職の役割 全人的な援助 第2回：介護福祉職の役割 自己実現 第3回：介護福祉職の役割 代弁者 第4回：介護福祉職の役割 介護過程の展開（実践） 第5回：介護福祉士の課題と育成 第6回：地域包括ケアの担い手 ホームヘルパー 第7回：地域包括ケアの担い手 デイサービスセンター 第8回：地域包括ケアの担い手 小規模多機能型介護 第9回：地域包括ケアの担い手 定期巡回随時対応訪問介護看護 第10回：介護福祉教育 基本的なあり方 第11回：介護福祉教育 教材研究 第12回：国際比較 ケアワーク論「ドイツにおけるケア」 第13回：国際比較 ケアワーク論「北欧・フィンランドにおけるケア」 第14回：国際比較 ケアワーク論「韓国などアジア圏におけるケア」 第15回：まとめ

学修方法	「講義」を中心に行いますが、適宜「討議」も行います。
評価方法	レポート 60%、討議への参加 40%によって評価する。
課題に対するフィードバック	課題提出後の面談または moodle にて課題に対するフィードバックを行います。
指定図書	『介護福祉学の探求』有斐閣
参考書	『介護福祉学への招待』クリエイティブかもがわ 『一番ヶ瀬社会福祉理論の再検討』ミネルヴァ書房・『ケアの本質 メイヤロフ』 『「地域ケアを拓く介護福祉学」シリーズ 生活支援の実践』光生館 『「地域ケアを拓く介護福祉学」シリーズ 生活支援の基礎理論Ⅰ』光生館
事前・事後学修	事前学習：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40 分) 事後学修：講義内容について振り返り整理しておく。(40 分)
オフィスアワー	社会福祉学部所属の野田由佳里研究室（2706 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	介護福祉特論Ⅱ（生活支援論・自立支援介護）
科目責任者	古川 和稔
単位数他	2単位（30時間） 選択 秋セメスター
科目の位置付	(2)高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	施設完結型介護ではなく、地域型の介護福祉実践に必要な理論と知識について講義を行う。介護職が中心となるチームで、多職種と連携し、多様な支援を行うための知識、要介護高齢者の自立性回復に向けた支援のために必要な自立支援介護の基礎知識について解説する。
到達目標	1. 介護福祉分野および関連諸科学における主要な理論や概念に関する理解を深め、適切な用語を用いて説明できる。 2. 最新の知識、理論を習得し、研究論文に反映させることができる。 3. 自立支援介護の基礎理論を理解し、自立支援型ケアプラン作成方法について説明できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> 第 1 回：介護福祉士に求められる専門的な生活支援技術の構造 第 2 回：利用者と協働する力 第 3 回：介護の専門的な知識・技術 第 4 回：介護チーム・他職種との協働の基盤としての専門知識 第 5 回：介護福祉実践の構造 第 6 回：チーム・組織のマネジメント、介護チームの形成とリーダーシップ 第 7 回：介護福祉実践の根拠となるもの 第 8 回：排泄ケアの生理学(1) 排泄をトイレで行うための 4 つのケアと戦略について理解する。 第 9 回：排泄ケアの生理学(2) 高齢者の便秘と下剤について理解する。 第 10 回：排泄ケアの生理学(3) おむつはずしのための支援方法について理解する。 第 11 回：歩行の生理学(1) 自立支援介護における歩行の重要性について理解する。 第 12 回：歩行の生理学(2) 歩行能力の再獲得について理解する。 第 13 回：歩行の生理学(3) 運動学習のステージについて理解する。 第 14 回：認知症ケアの生理学(1) 認知の構造について理解する。 第 15 回：認知症ケアの生理学(2) 認知症ケアの 4 原則について理解する。

学修方法	「講義」を中心に行いますが、適宜「討議」も行います。
評価方法	レポート 60%、討議への参加 40%によって評価する。
課題に対するフィードバック	課題提出後の面談または moodle にて課題に対するフィードバックを行います。
指定図書	『地域ケアを拓く介護福祉学』シリーズ 生活支援総論』光生館 『介護の生理学』秀和システム
参考書	授業中に随時連絡します。
事前・事後学修	事前学習：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40 分) 事後学修：講義内容について振り返り整理しておく。(40 分)
オフィスアワー	社会福祉学部所属の古川和稔研究室 (2712 研究室) にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	介護福祉特論演習（ケアワーク論・介護福祉人材育成論）
科目責任者	野田由佳里
単位数他	2単位（30時間） 選択 秋セメスター
科目の位置付	(4)研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5)研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	・介護の社会化を資格制度と人材育成の両側面から理論的・体系的に考えながら、必要な理論と知識について講義を行う。 ・介護福祉士のキャリアパスについて職業能力から専門性を捉え学問体系の検討を行う。 ・今後の人材の質の向上・量の確保のために、介護人材育成に必要な基礎知識や養成プログラム各種研修制度について概説する。
到達目標	1. 専門分野における高度な知識と技術を習得し、実践モデルを作成できる。 2. 介護福祉士養成科目に関する知識、理論を習得し、解説することができる。 3. 介護福祉領域における任用資格などの養成に必要な基礎知識や養成プログラムの中身について説明できる。 4. 介護福祉士養成科目に関する知識、理論を習得し、解説することができる。 5. 介護福祉領域における任用資格などの養成に必要な基礎知識や養成プログラムの中身について説明できる。 6. 先行研究をベースにしての発表やテーマにおけるデベートに積極的に臨むことができる 7. 対象者別の研修プログラムを作成・提案できる
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：グループ討議 テーマ「介護福祉士養成科目 講義 領域人間と社会編」 第2回：グループ討議 テーマ「介護福祉士養成科目 講義 領域介護編」 第3回：グループ討議 テーマ「介護福祉士養成科目 講義 領域こころとからだのしくみ編」 第4回：グループ討議 テーマ「介護福祉士養成科目 実習編」 第5回：グループ討議 テーマ「介護福祉士養成科目 演習編」 第6回：グループ討議 テーマ「ファーストステップ研修A」 第7回：グループ討議 テーマ「ファーストステップ研修B」 第8回：グループ討議 テーマ「ユニットリーダー制度」 第9回：グループ討議 テーマ「プリセプター・アセッサー制度」 第10回：研修プログラムの要素 第11回：対象者別研修プログラム作成演習①外国人介護士 第12回：対象者別研修プログラム作成演習②新人教育 第13回：対象者別研修プログラム作成演習③中堅者教育 第14回：対象者別研修プログラム作成演習④管理者教育 第15回：対象者別研修プログラム作成演習⑤相互交流プログラム

学修方法	「討議」と「発表」を中心に行います。
評価方法	レポート 60%、討議への参加 40%によって評価する。
課題に対するフィードバック	課題提出後の面談または moodle にて課題に対するフィードバックを行います。
指定図書	『地域ケアを拓く介護福祉学』シリーズ 生活支援総論』光生館
参考書	授業中に随時連絡します。
事前・事後学修	事前学習：授業で示した資料及び関連する文献を読んでおく。(40 分) 事後学修：講義内容について振り返り整理しておく。(40 分)
オフィスアワー	社会福祉学部所属の野田由佳里研究室(2706 研究室)にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	介護福祉特論演習（生活支援論・自立支援介護）
科目責任者	古川 和稔
単位数他	2単位（30時間） 選択 秋セメスター
科目の位置付	(4)研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5)研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	施設完結型介護ではなく、地域型の介護福祉実践を想定した事例検討を行う。介護職が中心となるチームで、多職種と連携し、支援が必要な対象者の自立に向けた支援方法の実際について、演習を通して学修する。
到達目標	1. 専門分野における高度な知識と技術を習得し、実践モデルを作成できる。 2. 最新の知識、理論について文献を調べるとともに、発表・討議ができる。 3. 事例をもとに、自立支援型ケアプランを作成できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> 第1回：生活支援における介護福祉士の役割について グループ討議 第2回：介護福祉実践の対象について グループ討議 第3回：介護福祉士に求められる専門的な生活支援技術の構造について グループ討議 第4回：介護福祉実践の根拠について グループ討議 第5回：自立支援型ケアプラン総論と施設からの在宅復帰 第6回：自立支援介護 水の生理学について グループ討議 第7回：自立支援介護 食事ケアの観点 グループ討議 第8回：自立支援介護 排泄ケアの観点 グループ討議 第9回：自立支援介護 歩行ケアの観点 グループ討議 第10回：自立支援介護 認知症ケアの観点 グループ討議 第11回：自立支援型ケアプラン演習① 排泄ケアの困難事例 第12回：自立支援型ケアプラン演習② 食事ケアの困難事例 第13回：自立支援型ケアプラン演習③ 歩行ケアの困難事例 第14回：自立支援型ケアプラン演習④ 認知症ケアの困難事例 第15回：自立支援型ケアプラン演習⑤ 施設からの在宅復帰事例

学修方法	「討議」と「発表」を中心に行います。
評価方法	レポート 60%、討議への参加 40%によって評価する。
課題に対するフィードバック	課題提出後の面談または moodle にて課題に対するフィードバックを行います。
指定図書	『地域ケアを拓く介護福祉学』シリーズ 生活支援総論』光生館 『介護の生理学』秀和システム
参考書	授業中に随時連絡します。
事前・事後学修	事前学習：授業で示した資料及び関連する文献を読んでおく。(40 分) 事後学修：講義内容について振り返り整理しておく。(40 分)
オフィスアワー	社会福祉学部所属の古川和稔研究室 (2712 研究室) にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	社会福祉学特別研究																
研究指導教員	大友 信勝、川上 昌子、佐藤 順子、福田 俊子、石川 瞭子、藤田 美枝子、太田 雅子、染谷 淑子、横尾 恵美子、古川 和稔、野田 由佳里（研究指導教員は領域および課題によって決まる）																
研究指導教員																	
単位数他	8 単位（120 時間） 通年																
科目の位置付	(4)研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5)研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。																
科目概要	修士論文を作成するために必要な社会福祉学の領域の最新の学習を踏まえて、各学生は特定の研究課題を選択し、研究計画書を作成し、データ収集・分析を行い、修士論文を完成させる。研究指導は、研究指導教員を中心に、社会福祉学分野の複数教員が協力しながら行う。																
到達目標	1. 各学生が自身の研究課題の焦点化を深め、研究計画を作成する 2. 研究計画に沿って、倫理的配慮について第3者評価を得て、資料収集を行う 3. 得られた資料を適切に分析し、論文としてまとめる																
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">＜授業内容・テーマ等＞</th><th>＜評価方法＞</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> ＜授業内容・テーマ等＞ 1 年次春semester：社会福祉原論特論、ソーシャルワーク論、社会福祉政策論、こども・家庭福祉特論、現代リハビリテーション学特論、保健科学英語特論などで学修した内容を用いて、先行研究論文の吟味や討論を行い、研究課題について焦点を絞る。 </td><td> 討 論 参 加 度 (30%) 及び課題の焦点化達成度 (70%) </td></tr> <tr> <td colspan="2"> 1 年次秋semester：春semesterの学習を踏まえて研究計画を検討会で発表し、研究科委員会構成メンバーから指導を受け、研究計画書を推敲し、研究科委員会の承認を受ける。 </td><td> 発 表 態 度 (30%) 発表内容及び研究計画書の完成度 (70%) </td></tr> <tr> <td colspan="2"> 2 年次春semester：研究計画書に従って、研究倫理委員会に研究計画の倫理的配慮について申請し、承認を受けた後、調査を開始、データ収集、分析を行う。 </td><td> 研究計画の倫理的配慮の精度 (40%) データ収集の適切性 (30%)、データ分析の論理性・技法の適切性 (30%) </td></tr> <tr> <td colspan="2"> 2 年次秋semester：指導を受けながら、データの分析を行い、論文を執筆し、完成させる。 </td><td> 論文の完成度 (70%) 第3者の評価による修正の適切性 (30%) </td></tr> </tbody> </table>		＜授業内容・テーマ等＞		＜評価方法＞	＜授業内容・テーマ等＞ 1 年次春semester：社会福祉原論特論、ソーシャルワーク論、社会福祉政策論、こども・家庭福祉特論、現代リハビリテーション学特論、保健科学英語特論などで学修した内容を用いて、先行研究論文の吟味や討論を行い、研究課題について焦点を絞る。		討 論 参 加 度 (30%) 及び課題の焦点化達成度 (70%)	1 年次秋semester：春semesterの学習を踏まえて研究計画を検討会で発表し、研究科委員会構成メンバーから指導を受け、研究計画書を推敲し、研究科委員会の承認を受ける。		発 表 態 度 (30%) 発表内容及び研究計画書の完成度 (70%)	2 年次春semester：研究計画書に従って、研究倫理委員会に研究計画の倫理的配慮について申請し、承認を受けた後、調査を開始、データ収集、分析を行う。		研究計画の倫理的配慮の精度 (40%) データ収集の適切性 (30%)、データ分析の論理性・技法の適切性 (30%)	2 年次秋semester：指導を受けながら、データの分析を行い、論文を執筆し、完成させる。		論文の完成度 (70%) 第3者の評価による修正の適切性 (30%)
＜授業内容・テーマ等＞		＜評価方法＞															
＜授業内容・テーマ等＞ 1 年次春semester：社会福祉原論特論、ソーシャルワーク論、社会福祉政策論、こども・家庭福祉特論、現代リハビリテーション学特論、保健科学英語特論などで学修した内容を用いて、先行研究論文の吟味や討論を行い、研究課題について焦点を絞る。		討 論 参 加 度 (30%) 及び課題の焦点化達成度 (70%)															
1 年次秋semester：春semesterの学習を踏まえて研究計画を検討会で発表し、研究科委員会構成メンバーから指導を受け、研究計画書を推敲し、研究科委員会の承認を受ける。		発 表 態 度 (30%) 発表内容及び研究計画書の完成度 (70%)															
2 年次春semester：研究計画書に従って、研究倫理委員会に研究計画の倫理的配慮について申請し、承認を受けた後、調査を開始、データ収集、分析を行う。		研究計画の倫理的配慮の精度 (40%) データ収集の適切性 (30%)、データ分析の論理性・技法の適切性 (30%)															
2 年次秋semester：指導を受けながら、データの分析を行い、論文を執筆し、完成させる。		論文の完成度 (70%) 第3者の評価による修正の適切性 (30%)															

学修方法	ディスカッション、発表、個別指導、講義
評価方法	上記、評価方法を用いて、総合的に最終評価を行う。
課題に対するフィードバック	課題提出後の面談等によってフィードバックを行う
指定図書	なし
参考書	授業時に随時連絡
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示した該当箇所を学修する。(40 分) 事後学修：授業内容について振り返り整理しておく。(60 分)
オフィスアワー	初回授業時に提示